

## アルゼンチン・チリ国境付近の火山

<須藤 茂>

アンデスの火山というと、5-6,000m級の山を思い浮かべるかもしれませんが、ここに紹介する南緯38-40度の火山は、その基盤の高度がそれほど高くないために、いずれも4,000m以下です。それでも夏でも山頂付近には雪や氷河をいただいています。温泉や地熱活動が活発な地域もありますが、住居はまばらです。噴火が起きても災害は少なく済みそうです。



1. コパウエ (Copahue) 火山 (2,997m など) 山頂部の Laguna del volcan (火口湖) に迫る氷河の先端。  
この火口では2000年にも噴火が起こり、ふもとの町に火山灰が降りました。火口縁にはそのときに放出された岩塊が散在しています。ストロンボリ式噴火で、玄武岩質安山岩を噴出しました。火と水(氷)とのせめぎあい場です。2003年3月15日撮影。



2. コパウェ火山山頂部.

東方上空から見ています. 手前が写真1の火口, その奥にも明瞭な火口地形が認められます. チリ・アルゼンチン国境付近のほかの多くの火山と異なり, 比較的なだらかな山体です. 左奥はチリ側のカジャキ (Callaqui) 火山 (3,164m).



3. コパウェのカルデラといわれている地形.

カルデラ西縁のコパウェ火山から東方を望みます. スカイラインのひとつ手前の比高約600mの崖がカルデラ縁で, 東西約19kmの凹地形があります. U字型の湖がカビアウエ湖で, その手前がスキー場になっています.



4. コパウェ火山の先氷河期溶岩。  
この擦り傷があるだけで氷河期よりも古いことがわかる単純明解にして美しい溶岩です。

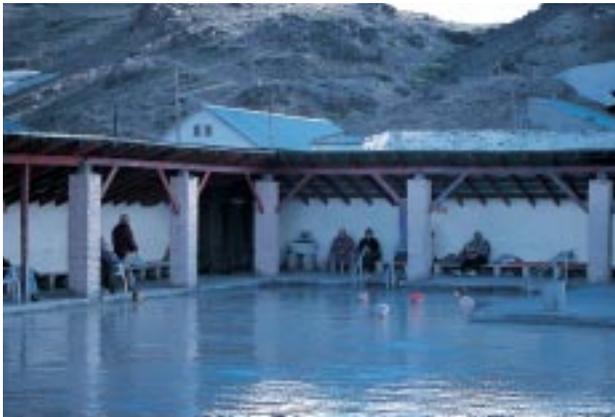
5. コパウェ火山の枕状？溶岩。  
地表が雪または氷に覆われていたときに噴出したと思われる溶岩です。



6. コパウェカルデラ底の溶岩とアラウカリアの木。  
柱状節理を示す溶岩は多くの滝も作って観光地になっています。太くて丈夫な木はこのネウケン州の象徴的存在です。



7. コパウェ温泉。  
コパウェ火山の北東麓の凹地内にあり、療養施設などがあります。この右上にも凹地があります。この南2 km地点では地熱井が掘削されました。



8. コパウェ温泉の泥湯。  
ほかに足湯などもある本格的な温泉です。



9. アンツコ (Antuco) 火山 (2,979m)。  
コパウェ火山の北にあるチリ内の複合成層火山の一部。



10. チリ・アルゼンチン国境付近の山々。  
北から南を見ています。右からトルアカ (Tolguaca, 2,806m), ロンキマイ (Lonquimay, 2,865m), ジャイマ (Llaima, 3,125m), シエラネバダ (Siera Nevada, 2,554m), ビヤリカ (Villarrica, 2,847m)。2003年3月16日撮影。